

曾於地域畑地かんがい営農ビジョン

令和元年7月
曾於地域畑地かんがい営農推進本部

◆◆◆◆◆ 目 次 ◆◆◆◆◆

第1章	営農ビジョンの見直しにあたって	1
	1 策定の趣旨	1
	2 性格と役割	1
	3 策定主体	1
	4 計画期間	2
	5 市町営農ビジョンの作成と地域営農ビジョンとの関係	3
第2章	曾於地域畑かん営農の現状	4
	1 畑地かんがい施設の整備状況	4
	2 曾於地域農業の現状	5
第3章	畑かん営農の抱える課題	7
第4章	畑かん営農の振興方向	8
第5章	具体的振興方策	9
	1 畑かん営農への理解促進	9
	2 曾於畑かんを支える経営体の育成	9
	3 畑かんを活用した多様な産地の形成	10
	継続したIPMへの取組	
	4 新たな水利用方法の提案	11
第6章	生産目標及び経営体育成目標	12
	1 推進品目の生産目標	12
	2 曾於畑かんを支える経営体の育成目標	12
第7章	市町別畑かん営農の将来方向	13
	1 曾於市	14
	2 志布志市	19
	3 大崎町	26
	4 鹿屋市輝北町	29
参考資料		32

第1章 営農ビジョンの策定見直しにあたって

1 策定の趣旨

曾於地域は、全耕地面積の71%が畑地であり、園芸と畜産を基幹とする県内有数の畑作農業地帯です。

曾於東部地区での国営・県営事業完了、曾於南部・曾於北部地区での国営事業完了や大隅南地区での一部通水も開始され、畑かん施設の整備に伴い、水利用可能面積が拡大する中、計画的な水利用による生産安定及び計画的生産を図り、生産技術と農業経営の改善による畑かん営農を受益者に普及して、所得向上に資することが喫緊の課題となっています。

このような中、地域の振興方向や重点品目等を明らかにした「曾於地域畑かんがい営農ビジョン」（以下、地域営農ビジョン）を見直し、受益農家と地域リーダー、関係機関・団体、が一体となって畑かん営農を積極的に推進します。

2 性格と役割

- (1) この地域営農ビジョンは、畑かんを活用した地域農業の基本目標を明らかにし、受益地で誰がどのような農作物を栽培し、どのような営農体系を目指すかなど、具体的な方向を示すものです。
- (2) この地域営農ビジョンは、受益農家と関係機関・団体にとって、生産振興や経営改善の指針となるものです。

3 策定主体

曾於地域畑かんがい営農推進本部

曾於市、志布志市、大崎町、鹿屋市（輝北町）

曾於市議会、志布志市議会、大崎町議会、鹿屋市議会

曾於市農業委員会、志布志市農業委員会、大崎町農業委員会、鹿屋市農業委員会

そお鹿児島農業協同組合、あおぞら農業協同組合

曾於東部土地改良区、曾於南部土地改良区

曾於北部地区土地改良事業推進協議会、曾於北部土地改良区

鹿児島県（大隅地域振興局農林水産部、県農業開発総合センター茶業部大隅分場）

鹿児島県（曾於畑かんがい農業推進センター）

4 計画期間

この地域営農ビジョンは、曾於地域畑地かんがい営農ビジョン（平成(H)19年度策定）の目標年度（平成30年度）到達に伴う見直しであり、目標年度は10年後の令和(R)10年度とします。

計画期間中、営農ビジョン目標への達成度合いや社会情勢の変化等に応じて、5年後に評価を行い、曾於地域の畑かん営農確立に向けた方針を検討し、見直しを行うこともあります。

○通水時期とビジョン策定・目標年度

	通水時期		前ビジョン		当ビジョン	
	一部 通水開始	完全通水	策定年度	目標年度	策定年度	目標年度
曾於東部地区	H 5年	H23年	H19年	H30年	H30年	R 10年
曾於南部地区	H19年	H26年				
曾於北部地区	H26年	R 2年	H25年	R 9年		

※ 曾於東部地区は 1993(H5)年度から一部の受益地で調整池を利用した暫定通水が開始されたが、2007(H19)年度まで取水制限がある。

※ 全面通水とは、すべての受益地で給水栓を開けるとダムの水が利用できること。

○市町別受益面積（※県営受益面積とした）

（ha）

	曾於東部地区	曾於南部地区	曾於北部地区	大隅南地区	計
曾於市	1,002		1,998	212	3,212
志布志市	2,118	1,859			3,977
大崎町		1,752			1,752
鹿屋市輝北町		317			317
計	3,120	3,928	1,998	212	9,258

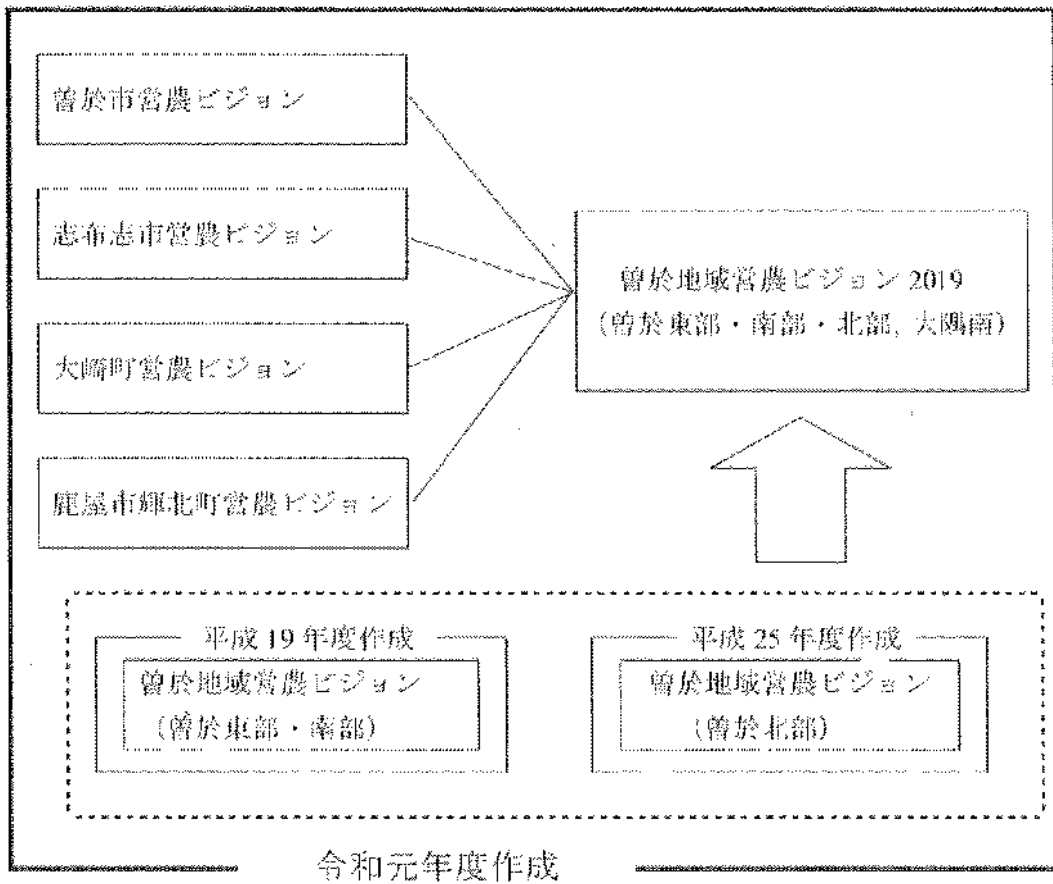
平成 31 年 3 月現在

5 市町営農ビジョンの作成と地域営農ビジョンとの関係

平成19年度に策定した曾於地域畑かん営農ビジョン、平成25年度に策定した曾於市（曾於北部地区）畑かん営農ビジョンに基づき、地域及び関係機関・団体が一体となり推進してきました。

今回、2つの地域営農ビジョンを1本化し、市町営農ビジョンを基本として地域営農ビジョンを見直し、受益農家、畑かんマイスター、市町営農推進本部、地域営農推進本部、関係機関・団体が一体となった曾於地域の畑かん営農を推進します。

○市町営農ビジョンと地域営農ビジョンの関係



第2章 曾於地域畑かん営農の現状

1 畑地かんがい施設の整備状況

曾於地域では、昭和59年から大規模畑地かんがい事業への取り組みがスタートし、曾於東部地区での国営・県営事業完了、曾於南部・曾於北部地区での国営事業完了や平成30年度に大隅南地区での一部通水が開始され、水利用可能面積が拡大しています。

○ 曾於東部地区の畑かん事業

国営事業：H18事業完了、県営事業：H24事業完了

○ 曾於南部地区の畑かん事業計画

(単位：ha)

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
国営事業 H20完了									
県営事業 H19一部通水	→								
配管面積	3,928	3,928	3,928	3,928	3,928				
給水栓	3,273	3,300	3,400	3,700	3,928				

曾於畑地かんがい農業推進センター(平成30年3月現在)

○ 曾於北部地区の畑かん事業計画

(単位：ha)

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
国営事業 H20完了									
県営事業 H19一部通水	→								
配管面積	873	1,013	1,153	1,293	1,433	1,573	1,713	1,853	1,998
給水栓	517	665	813	961	1,109	1,257	1,405	1,553	1,701

曾於畑地かんがい農業推進センター(平成30年3月現在)

※1 配管面積：給水栓取付管までの設置

※2 給水栓：給水栓及び垂直バルブまでの設置面積、給水栓を開けると水が出る面積

○ 大隅南地区の畑かん事業計画

(単位：ha)

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
県営事業	→								
配管面積	140	160	170	185	195	205	212		
給水栓	140	160	170	185	195	205	212		

曾於畑地かんがい農業推進センター(2018年3月現在)

※1 配管面積：給水栓取付管までの設置

※2 給水栓：給水栓及び垂直バルブまでの設置面積、給水栓を開けると水が出る面積

2 曾於地域農業の現状

(1) 農家構造の変化

全国的に農家が減少する中、曾於地域においても、高齢化等を背景に販売農家、自給的農家が減少し、生産力の脆弱化が懸念されます。

このような中、農業生産法人については増加傾向にあり、農家構造の一極化が進んでいることが伺えます。

特に、経営熟度の高い認定農業者の法人化や他産業からの参入等により、農業生産法人が増加しています。

○ 農家数の推移

(単位：戸、%)

	平成17年	平成22年	平成27年	構成比	27年/17年
総農家数	11,940	10,233	7,933	100.0	66.4
自給的農家	3,568	3,544	2,965	37.4	83.1
販売農家	8,372	6,689	4,968	62.6	59.3
主業農家	2,517	1,943	1,571	19.8	62.4
準主業農家	842	768	480	6.0	57.0
副業的農家	5,013	3,978	2,917	36.8	58.2

農林業センサス

○ 販売農家の人口と高齢化

(単位：人、%)

	平成17年			平成27年			65才以上農家 割合の増加率 (27年-17年)
	販売農家 人口	65才以上 人数	割合	販売農家 人口	65才以上 人数	割合	
曾於市	10,867	5,133	47.2	5,782	3,004	52.0	4.8
志布志市	6,672	2,616	39.2	3,352	1,489	44.4	5.2
大崎町	3,802	1,547	40.7	2,042	1,057	51.8	11.1
輝北町	1,689	742	43.9	1,065	451	42.3	△1.6
地域計	23,030	10,038	43.6	12,241	6,001	49.0	5.4
県計	161,187	66,418	41.2	97,001	43,733	45.1	3.9

農林業センサス

○ 認定農業者の確保状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H28		
								計	個人	法人
戸数等	1,347	1,368	1,420	1,418	1,389	1,353	1,315	1,289	1,112	177

平成29年3月末現在（鹿屋市輝北町は含まない）

(2) 農業生産構造の現状

曾於地域の農業産出額は1,010億円で、本県農業産出額の約23%を占める県内有数の農業地帯です。

曾於地域の基幹部門は畜産で農業産出額の約75%を占め、畜産を支える飼料作物の作付面積は約6,000haです。

耕種部門では、加工・業務用等の需要に伴い野菜の農業産出額、作付面積が増加の傾向にありますが、さつまいも・花きの作付面積は平成12年以降増加傾向であったものの、平成28年では減少傾向にあります。

○ 部門別産出額の推移 (単位：千万円、%)

	H12	H17	H27	H27/H17	H27/H12
産出額合計	7,386	7,892	10,103	128	137
畜産部門	4,686	5,457	7,606	139	162
肉用牛	1,285	1,616	2,316	143	180
豚	1,497	1,674	2,516	150	168
鶏	1,714	2,018	2,669	132	156
耕種部門	2,655	2,358	2,306	98	87
いも類	444	553	469	85	106
野菜	891	553	469	85	106
工芸作物	584	578	281	49	48

H12,17：農林水産省「生産農業所得統計」

H27：市町村別農業産出額（推計） H22：市町村別データなし

○ 作付面積の推移 (単位：ha、%)

	H12	H17	H22	H28	H28/H17	H28/H12
さつまいも	2,610	2,930	3,798	3,399	89	130
野菜	2,435	2,160	2,166	2,210	102	91
花き	98	137	185	135	73	137
果樹	151	142	101	63	62	42
茶	1,480	1,610	1,745	1,775	102	120
飼料作物	7,922	7,713	5,862	5,955	102	75

H12,17：農林水産省「作物統計調査」

H22：曾於地域農業の動向，H28：大隅地域の農業

飼料作物は鹿児島県「市町村別畜産統計」

第3章 畑かん営農の抱える課題

1 事業地区に応じた畑かんに関する推進活動が必要である

受益農家に対し、計画的な作付、増収などの水利用効果や散水器具の選定、取扱いへの理解を深めるための活動、畑かん整備計画等の情報提供活動を実施してきましたが、水利用に対する意識には受益農家個々で差がある状況です。

また、事業地区により事業進捗が異なるため、地区により推進方法等が異なります。

このため、あらゆる機会を捉えて、事業地区に応じた畑かんに関する情報を提供し、受益者の畑かんに対する理解を深める必要があります。

2 農家の減少と高齢化の進展に対応して経営体の育成・強化必要がある

農家数が減少し、高齢化も進展する中で、産地の生産力の脆弱化が懸念されます。

今後、畑かんを活用した産地形成や地域の活性化を図る上で、認定農業者や法人など地域の農業を支える担い手を育成していくことが求められています。

3 さつまいもや飼料作物等の作付が大半を占めている

受益地において、さつまいもと飼料作物が、作付面積の大半を占めています。

茶や野菜などの収益性の高い品目の導入と産地拡大を図り、さつまいもと飼料作物に対する水利用の理解と推進を図るとともに、さつまいも後作の露地野菜等での水利用や輪作体系の推進を図ることで生産性の高い畑かん営農を実現する必要があります。

また、それらでの水利用による生産性向上等を図るため新たな水利用方法についても検討・提案していく必要があります。

第4章 畑かん営農の振興方向

振興方向Ⅰ 畑かん営農への理解促進

畑かん施設の整備に伴い、水を利用した営農の普及・拡大をさらに図るため、推進体制を充実するとともに、水利用品目の試作・展示や散水器材研修会等を通じて、受益者の水利用に対する理解を深めます。

また、地域のリーダーとなる畑かんマイスターと連携し、畑かんマイスターを中心とした見せる展示ほどのPR等、継続した推進に努めます。

振興方向Ⅱ 曾於地域農業を支える経営体の育成

農家の高齢化、農家の減少等に対応し、認定農業者等の規模拡大や、法人化への誘導等、経営の発展段階に応じた支援を行い、畑かんを活用した曾於地域の農業を支える経営体を育成します。

また、雇用確保対策等による経営安定や、農地中間管理事業を活用し、畑かんがいの整備された優良な農地の集積・集約化を促進し、担い手の経営の効率化を図ります。

振興方向Ⅲ 畑かんを活用した多様な産地の形成

広大な畑地を活用して、茶や野菜など生産性や付加価値の高い畑作産地を育成するとともに、作付面積が大きいさつまいもや飼料作物についても、水利用による計画的な生産を推進します。

また、生産者の経営安定を確保するため、加工・業務用野菜の契約取引の拡大や大隅加工技術研究センターと連携した一次加工の推進などに取り組みます。

振興方向Ⅳ 新たな水利用方法の提案

従来の散水だけでは畑かんの水利用が天候に左右されるという現状があります。そこで、少雨時の利用だけでなく積極的に畑かんを活用した営農を進めるため、新たな水利用方法の模索・提案に取り組みます。

第5章 具体的推進方策

1 畑かん営農への理解促進

(1) 推進体制の整備・充実

- ① 曾於地域畑地かんがい営農推進本部を中心とした推進活動の強化
- ② 課題別ワーキングチームの設置と解決方策の実践
 - ・大型露地野菜産地育成に向けた戦略
 - ・茶の効率的な水利用体制と団地化
 - ・飼料作物の水利用推進対策 など
- ③ 受益者（地域リーダー「畑かんマイスター」）と一体となった推進体制

(2) 畑かんに対する理解促進

- ① 受益者（通水地区）への推進座談会等の実施
- ② 散水器材取扱研修会の開催
- ③ 広報誌等を活用した畑かん情報（事業の進捗、通水地区等）の提供
- ④ 各市町営農推進本部の「見せる展示」の設置による広報

(3) 水利用効果の周知・普及

- ① 品目別水利用研修会の実施
- ② 広報誌等を活用した水利用効果の紹介
- ③ 品目別水利用技術の実証、展示

2 曾於地域農業を支える経営体の育成

(1) 認定農業者（志向農家を含む）等への支援

- ① 水利用による安定生産技術の普及と生産性の向上
- ② 水利用営農組織のモデル育成による円滑な水利用の推進

(2) 大規模経営体の育成と法人化の推進

- ① 大規模経営体（志向農家を含む）の実態、意向把握
- ② 農地集積、団地化に向けた情報交換、調整会議等の実施
- ③ 規模拡大に応じた省力化、高品質化技術等の導入促進
- ④ 県農業農村振興協会と連携した法人化志向経営体を対象にしたセミナーの開催
- ⑤ IOT等によるスマート農業の推進

(3) 大規模経営体の組織化（ネットワーク化）の推進

- ① 個別経営体の農地確保、集団化等に関する情報交換
- ② 実需者への安定供給体制に向けた連携
- ③ 雇用の安定確保に向けた調整

(4) 雇用型大規模法人の育成

- ① 大規模化に向けた経営計画の作成支援と資本整備の促進
- ② 雇用の安定確保と雇用の技術力向上
- ③ 農地確保、集団化への支援

3 畑かんを活用した多様な産地の形成

(1) 畑かん受益地における推進品目

- ① 水利用効果が高く、生産性の高い品目の中から、地域の実情や今後の営農方向を考慮した推進品目を選定

○畑かん受益地における推進品目

分類	内容
畑かん推進品目	<ul style="list-style-type: none">・茶・さつまいも輪作品目：だいこん、キャベツ、にんじん、はくさい、ばれいしょ・さつまいも代替品目：ごぼう、さといも、かぼちゃ、しょうが、たまねぎ・施設園芸（野菜）：ピーマン、いちご、にがうり、軟弱野菜（葉ねぎ、ハウレンソウメロン）・花き：きく類、ソリダゴ、花木・果樹：ゆず・さつまいも・飼料作物

※ ただし、上記以外の品目についても、実需者ニーズなどを的確に捉え、需要動向に対応した新品目の検討・産地化を図る。

(2) 品目別振興方策

① 茶の生産安定と産地拡大

- ・ 防霜対策，かん水や病害虫防除など水利用による生産安定
- ・ 円滑な水利用や作業の効率化を目指した圃地化の推進と産地拡大

② 露地野菜の大規模産地の育成

- ・ さつまいもとの輪作によるだいこん，キャベツ等露地野菜の産地育成
- ・ かん水による収量向上と適期作付による計画的生産
- ・ ごぼうの周年安定生産（夏場に播種する作型の生産安定）

③ 施設園芸の安定生産と規模拡大による競争力の強化

- ・ ビーマン，スプレーギク，パッションフルーツ等の産地拡大
- ・ 生産安定技術の普及・定着

④ 豊後地域の畜産を支える飼料作物の生産拡大

- ・ 飼料作物の安定生産による自給粗飼料の確保
- ・ 飼料作物の安定供給に向けた粗飼料生産組織やコントラクターの育成

⑤ 加工業務用農産物の生産拡大

- ・ だいこん，ほくさい等業務加工用需要に対応した計画的生産体制の確立
- ・ 付加価値を高める一次加工への取組促進

(3) 流通・販売対策

① 生産者が安心して取り組める販売体制の構築

- ・ 契約取引の拡大と産地体制の整備
- ・ 契約取引に対応した経営体（群）の育成
- ・ 収入保険制度や価格安定制度への加入促進
- ・ 農協が中心となった農業生産法人の育成と産地拡大

② 農産物の輸出

- ・ 海外需要の情報収集と商談会等への参加
- ・ 研究会（銘茶，IPM，有機栽培）による茶輸出拡大の取組支援

(4) 継続したIPMへの取組

- ・ 茶における病害虫の密度抑制
- ・ 施設における土壌還元消毒による土壌病害の防除

4 新たな水利用方法の提案

- ・ 露地野菜等における夏季高温対策
- ・ 露地における肥培管理等利用の検討

第6章 生産目標及び経営体育成目標

今後の畑かん営農の推進にあたり、下記のとおり目標を設定し、目標達成に向けて関係機関・団体はもとより、受益者と一体となって取り組みます。

1 推進品目の生産目標

(単位：ha)

推進品目	作付面積									
	現況 (H30年度)					目標 (R10年度)				
	曾於市	志布志市	大崎町	輝北町	曾於市	志布志市	大崎町	輝北町		
茶	1,570.0	367.3	1,037.0	32.0	43.7	1,582.5	377.3	1,073.0	87.6	43.7
野菜類	2,126.5	653.8	805.3	596.6	70.8	2,301.6	680.6	924.1	619.4	77.3
花き類	35.5	13.0	8.5	1.6	12.4	32.5	13.0	7.4	1.6	10.5
さつまいも	2,708.3	1,021.2	1,260.6	407.7	18.8	2,709.4	1,021.2	1,274.6	390.9	16.7
飼料作物	4,030.0	1,681.4	1,154.6	893.4	308.6	4,044.1	1,661.4	1,178.5	904.1	300.1
計	10,470.3	3,716.7	4,306.0	1,993.3	454.3	10,664.1	3,753.7	4,458.5	2,033.6	448.3

※1 現状の作付面積は平成30年度作付調査からの推計値

※2 目標は令和10年度で、作付面積は各市町の営農ビジョンより抜粋

2 曾於地域農業を支える経営体の育成目標

(単位：戸)

		現況 (H30)	育成目標 (R10)	増減	備考
家族経営	曾於市	558	549	▲ 9	
	志布志市	508	583	75	
	大崎町	223	266	43	
	鹿屋市	643	865	222	
法人経営	曾於市	63	74	11	
	志布志市	81	90	9	
	大崎町	33	34	1	
	鹿屋市	111	126	15	
計		2,220	2,587	367	

※ 鹿屋市輝北町は鹿屋市の数値を使用。

※ モデル経営類型：各市町村の「農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想」の営農類型より

第7章 市町別畑かん営農の将来方向

畑かん営農ビジョン【市町編】
令和元年6月現在

■ ■ 畑かんを活用した生産性の高い畑作営農で安定した大規模産地を構築

曾於市は畜産を基幹部門としており、農業総産出額 477 億 4 千万円（平成30年）で畜産の占める割合は全体の85.7%となっています。一方、耕種部門の割合は14.3%で、そのうち野菜類が約5%、いも類や工芸作物が約6.1%となっています。

現在の営農は畑作用水の多くを降雨に頼り、天候に左右されやすい状況となっています。このため、さつまいもや飼料作物などの品目が作付けの大半を占め、計画的な作付けが行われず、収益性の高い農業が実現されていない状況にあります。

今後は、畑地かんがい施設の整備を更に進め、露地野菜を中心に水を利用した高収益作物の導入を進めるとともに、既存作物についてもかん水効果を最大限に活かすことによる、収量と品質の安定を図る必要があります。

1 畑かん受益地の範囲

地区名	耕地面積	受益面積	受益割合	事業実施範囲
末吉	2,545ha	1,726ha	67%	曾於東部 1,002ha・北部 724ha
財部	1,180ha	930ha	78%	曾於北部 930ha
大隅	1,935ha	556ha	28%	曾於北部 344ha・大隅南 212ha



ごぼう播種後の散水状況



さつまいもロールカー散水状況



散水器具実演会



茶プロジェクト畑かん研修会

2 畑かん受益地における推進品目

地域名	部門名	推進品目
曾於市	野菜	だいこん, はくさい, キャベツ, ごぼう, かぼちゃ, さといも, しょうが, 軟弱野菜
	花き類	きく類, ソリダゴ
	工芸作物	茶, さつまいも
	果樹	ゆず
	畜産	飼料作物

3 畑地かんがい利用の方向性

①野菜

- 広大な畑地を活用して露地野菜の面積拡大を進めるとともに、水利用による生産性の向上を図り、計画的な生産が可能な産地の育成を図ります。
- さつまいもと露地野菜を組み合わせた大規模農家の育成を目指し、規模拡大志向農家への農地の集積と水利用推進を図りながら、機械化体系による省力化やさつまいもの輪作作物として、「ごぼう」、「だいこん」、「はくさい」、「キャベツ」を推進します。
- 生産者が安心して作れる販売体制を確立するために、市単独の価格安定制度の拡充や加工業務用野菜等の契約栽培を推進します。



はくさいへの散水状況



さといもへの散水状況

② 花き類

- 水利用による生産性の向上を図り、計画的な生産・出荷が可能な産地の育成を図ります。
- 新規就農支援対策事業（市単独補助）や施設・器具整備（国県補助）の積極的な活用で生産者の育成を図る。

③ 茶

- 認定農業者を中心に農地集積を推進するとともに、既存栽培ほ場を中心に作付面積の拡大を進めます。
- 防霜対策の水利用を基本としながら、効率的な水利用を行うために団地化を推進します。

④ さつまいも

- 畑作の多くを占める「さつまいも」については、水利用による一斉採苗等で良質苗の確保を図るとともに、植え付け時のかん水による活着促進を図ります。
- 畑かん利用による天候に左右されない作付けを行い、計画的なさつまいも生産体制を確立します。

⑤ 飼料作物

- 「飼料作物」については、認定農業者を中心に畑かんの積極的な活用を推進し、収量向上と安定生産により畜産農家の自給率向上を図ります。
- 水利用の拡大を図るため、栄養価の高い飼料作物の導入や高齢畜産農家等への粗飼料供給体制の整備について検討します。

⑥ ゆず

- 品質向上、果実肥大促進のために、水を活用した栽培を推進して所得向上を図る。

⑦ その他

- 地域における水利用調整や推進品目の振興を図るために、大規模経営体をモデルに水を利用した栽培体系を確立し、曾於市全体への普及と営農推進に関する活動を支援します。
- 今後の畑かん営農の中心となる大規模経営体のネットワークを構築し、規模拡大や産地振興に関する検討を行います。



推進品目のソリダゴ



ごぼうの散水状況

4 品目の生産目標（畑地かんがい受益地内）

推進品目	現況（H30）			目標（R10）			増減		
	面積(ha)			面積(ha)			面積(ha)		
	東部	北部	大隅南	東部	北部	大隅南	東部	北部	大隅南
野 菜	78.0	214.2	132.2	78.0	236.2	137.2	0.0	22.0	5.0
だいこん	47.9	92.6	1.8	37.9	97.6	1.8	△10.0	5.0	0.0
はくさい	4.5	4.7	86.0	4.5	4.7	86.0	0.0	0.0	0.0
キャベツ	1.7	9.4	35.8	1.7	11.4	35.8	0.0	2.0	0.0
ごぼう	15.4	51.3	3.6	20.4	61.3	13.6	5.0	10.0	5.0
かぼちゃ	4.6	2.7	0.0	4.6	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
さといも	2.5	41.0	0.0	7.5	46.0	0.0	5.0	5.0	0.0
しょうが	0.6	5.6	0.0	0.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
軟弱野菜	0.8	6.9	0.0	0.8	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0
花 き	1.8	4.0	3.0	1.8	4.0	3.0	0.0	0.0	0.0
きく類	1.7	4.0	2.8	1.7	4.0	2.8	0.0	0.0	0.0
ソリダゴ	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
工 芸 作 物	500.1	781.3	107.0	500.1	791.3	107.0	0.0	10.0	0.0
茶	94.9	261.9	10.2	94.9	271.9	10.2	0.0	10.0	0.0
さつまいも	405.2	519.4	96.8	405.2	519.4	96.8	0.0	0.0	0.0
果 樹	25.9	21.1	0.4	25.9	26.1	1.0	0.0	5.0	0.6
ゆず	25.9	21.1	0.4	25.9	26.1	1.0	0.0	5.0	0.6
飼 料 作 物	674.4	948.1	40.9	674.4	948.1	40.9	0.0	0.0	0.0
春夏作	264.8	422.2	19.9	264.8	422.2	19.9	0.0	0.0	0.0
秋冬作	409.6	525.9	21.0	409.6	525.9	21.0	0.0	0.0	0.0
推進品目合計	1,280.2	1,968.7	283.5	1,280.2	2,005.7	280.1	0.0	37.0	5.6

5 畑かんを支える経営体の育成目標

モデル類型	経営規模	現状	育成目標	(参考) 目標所得
さつまいも + 露地野菜 (家族)	さつまいも 5ha だいこん 5ha	72戸	75戸	500万円 ~630万円
	さつまいも 6ha はくさい 5ha			
	さつまいも 6ha キャベツ 4ha			
さつまいも + 露地野菜 (法人)	さつまいも 12ha だいこん 15ha	9法人	20法人	2,000万円
	さつまいも 10ha だいこん 10ha			
	ごぼう 10ha			
花き専作(家族)	キク類 0.3ha	11戸	11戸	520万円
茶専作(家族)	茶 7ha	33戸	25戸	600万円
茶専作(法人)	茶 15ha	7法人	10法人	1,200万円

1 志布志市畑地かんがい営農ビジョンの作成にあたって

(1) 趣旨

本市の耕地面積は、6,660haで、そのうち畑面積は5,130haあり、茶、園芸、畜産を中心とした営農が広がっている。また、畑地かんがい施設は、松山と志布志地区が含まれる曾於東部地区（受益地2,118ha）及び有明地区が含まれる曾於南部地区（受益面積1,859ha）があり、水を利用した農業の普及が期待されている。

したがって、畑かん活用による本市の農業振興を図るため、畑かん営農の将来方向や振興品目等を示し、畑かん営農を積極的に推進する。

(2) 役割

この営農ビジョンは、畑かんを活用した地域農業の基本目標を明らかにし、受益地で誰がどのような農作物を栽培し、どのような営農体系を目指すかなど、具体的な方向を示すものである。

(3) 計画期間

この営農ビジョンの目標年度は、推進した作物等の定着が見込まれる10年後の2028年度とする。ただし、社会情勢の変化等により、計画期間内に見直しを行うこともある。

2 畑かん営農の現状

(1) 畑地かんがい施設の整備状況

地区名		曾於東部		曾於南部	
受益面積 (ha)		松山町	1,050	有明町	1,859
		志布志町	1,068		
		計	2,118	計	1,859
工期	国営	昭和59年度～平成19年度		平成元年度～平成20年度	
	県営	昭和60年度～平成24年度		平成10年度～令和3年度 (予定)	
国営事業	ダム	「中岳ダム」 中心遮水ゾーン型 ロックフィルダム (末吉町南之郷中岳) 有効貯水量 425万m ³		「輝北ダム」 直線重力式 コンクリートダム (輝北町平房) 有効貯水量 635万m ³	
	頭首工	高岡		—	
	FP	8カ所		9カ所	
	揚水機場	2カ所		8カ所	
	水路工	98km		68km	

(2) 農業の現状

① 農家数

本市の農家数は、生産者の高齢化による離農及び農業後継者の不足から、農家戸数と農業に関わる就業者は減少傾向にある。

平成22年と平成27年を比較すると、本市の総農家数は19.7%、販売農家数は、25.4%減少し、過去5年間の農家戸数の減少率は、最も高いものとなっている。

<農家数の推移>

単位：戸、人

	総農家戸数	販売農家	自給的農家	農業就業人口
平成2年	4,367	3,728	639	6,411
平成7年	3,833	3,150	683	5,251
平成12年	3,497	2,696	801	4,598
平成17年	3,148	2,337	811	4,098
平成22年	2,657	1,775	882	3,166
平成27年	2,133	1,324	809	2,813

参考資料：農林業センサス

② 農業粗生産額

本市全体の農業粗生産額は、年々増加傾向にあるが、耕種部門では、平成27年まで減少傾向にあり、茶の生産額が影響している。その後、平成28年から増加に転じている。

また、畜産部門においては、平成25年頃から子牛価格が上昇し、高止まりの状況であることや肉豚価格も年々増収傾向で推移している。

<農業粗生産額の推移>

単位：100万円

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
耕種	10,401	10,217	9,864	11,045	12,388	
主な作物	茶	3,702	3,478	3,038	3,686	4,247
	野菜	3,997	4,161	4,131	4,616	4,931
	加工品	1,579	1,597	1,801	1,895	1,828
畜産	16,451	19,592	20,572	19,898	19,533	
計	26,852	29,809	30,436	30,943	31,921	

参考資料：志布志市農政畜産課

(3) 課題

本市の畑作は、茶、さつまいも及び飼料作物中心に作付けされており、近年は、畑かんの普及に伴いピーマン、いちごを中心とした施設野菜やキャベツ、ダイコン、ニンジンを中心とした露地野菜も広がりがつつある。

しかし、依然として計画的な作付けや増収など水利用効果に対する理解が深いとは言えず、散水器具等の選定や取り扱いについての知識も十分に浸透して

いるとは言い難い状況にある。

また、高齢化による担い手不足により、農家数が減少し、生産力の脆弱性が懸念される。今後、畑かんを活用した産地形成や地域の活性化を図る上で、認定農業者、認定新規就農者及び法人等の育成を図る必要がある。

受益地においては、さつまいもと飼料作物等の品目の作付けが大半を占め、野菜などの収益性の高い品目の導入と産地拡大を図る必要がある。

3 畑かん営農の振興方向

(1) 畑かん営農への理解促進

水利用品目の展示や散水器材研修会等を実施し、水を利用した営農の普及・拡大を図る。

(2) 経営体の育成

認定農業者、認定新規就農者の育成及び法人化への誘導、支援を行う。また、農地の集約化により、効率的な営農を目指す。

(3) 畑かんを活用した作物の産地形成

水利用による計画的な生産を推進し、生産性や付加価値の高い作物の拡大を図る。

4 畑地かんがい受益地における重点推進品目

地区名	部門名	重点推進品目
曾於東部 (松山、 志布志)	施設野菜	ピーマン、いちご
	露地野菜	だいこん、にんじん、キャベツ、かぼちゃ、ごぼう、しょうが、たまねぎ
	花き・花木	きく類、枝物
	工芸作物	茶
	いも類	さつまいも、ばれいしょ
	畜産	飼料作物
曾於南部 (有明)	施設野菜	いちご、メロン、にがうり
	露地野菜	だいこん、にんじん、キャベツ、かぼちゃ、ごぼう
	工芸作物	茶
	花木	枝物
	いも類	さつまいも、ばれいしょ
	畜産	飼料作物

5 畑地かんがい受益地内の営農目標

(1) 畑地かんがい施設利用の方向性

(ア) 露地野菜

水利用効果が高く、高収益が期待される野菜の導入を図り、さつまいもの後作又は転換作物として、キャベツ、だいこん、にんじん、ごぼう、かぼちゃ、しょうが、たまねぎを中心に推進する。

契約販売の拡大や付加価値をつける取組を支援し、加工業務用野菜等の導入を行い、生産者の経営安定に繋げる。

(イ) 施設野菜

地域の施設野菜の中心品目であるピーマン、いちご、メロン、にがうりについては、水利用による収量と品質向上への活用を図り、産地の拡大を目指す。

農業公社、県畑かんセンター、JA 等関係機関と連携して、新規就農者の確保、育成に取り組む。

(ウ) 茶

一番茶の安定した生産を図るため、適切な防霜対策に努め、品質及び生葉収量の増大を図るとともに、多目的水利用としてかん水や病害虫防除対策など高品質化及び生産性の向上に取り組む。

(エ) さつまいも

育苗時の畑かん利用による良質苗の安定確保を図るとともに、植え付け時のかん水による活着の安定及び収量の向上を目指す。

畑かん利用による計画的な生産体制の確立と露地野菜との組み合わせにより農家の経営安定を図る。

(オ) 花き・花木

きく類又は、枝物の生産を推進し、経営安定と所得向上を目指す。

(カ) 畜産

飼料作物への畑かん利用により、収量の向上と安定生産を目指し、畜産農家の経営安定を図る。

(キ) その他

畑かん利用により、循環型農業、IPM、有機農業など「安心・安全」の生産技術を確立し、普及啓発を図り、ブランド化を推進する。

(2) 畑地かんがい受益地内の重点推進品目と推進方策

分類	品目	推進地域	推進方策
施設野菜	トマト	松山、志布志	<ul style="list-style-type: none"> 新規参入者の育成 法人化の推進 畑かん受益地への推進 個別面積の拡大
	いちご	松山、有明	<ul style="list-style-type: none"> 新規参入者の育成 認定農業者を中心とした育成 畑かん受益地への推進 個別面積の拡大
	メロン	有明	<ul style="list-style-type: none"> 認定農業者を中心とした育成
	にがうり	松山、有明	<ul style="list-style-type: none"> 契約販売の導入
露地野菜	だいこん	全地域	<ul style="list-style-type: none"> さつまいも後作への面積拡大 水利用による収量、品質向上 規模拡大志向農家への推進 機械化作業体系による省力化 安定した雇用労力の確保 計画生産、計画出荷による販売の安定 契約販売や加工野菜の導入 JA、法人を中心とした生産システムの確立
	にんじん	全地域	
	キャベツ	全地域	
	かぼちゃ	志布志、有明	
	ごぼう	全地域	
	しょうが	松山、志布志	
	たまねぎ		
花き・花木	きく類	松山、志布志	<ul style="list-style-type: none"> 水利用による収量、品質向上 計画生産、計画出荷による販売の安定
	枝物	全地域	
工芸作物	茶	全地域	<ul style="list-style-type: none"> 法人や大規模農家を中心とした育成 水利用による防霜対策 経営に合った品種構成 農地流動化による規模拡大と団地化の推進
いも類	さつまいも	全地域	<ul style="list-style-type: none"> 畑かんを活用した計画的生産体系の確立 水利用技術の確立と普及
	ばれいしょ	全地域	<ul style="list-style-type: none"> 水利用による収量、品質向上 規模拡大志向農家への推進 機械化作業体系による省力化 計画生産、計画出荷による販売の安定 契約販売や加工野菜の導入
畜産	飼料作物	全地域	<ul style="list-style-type: none"> 飼料作物への水利用技術の確立と普及

(1) 重点推進品目の生産面積目標

重点推進品目	現況 (2017年度)	目標 (2028年度)
	面積 (h a)	面積 (h a)
施設野菜	81.0	92.0
ピーマン	36.0	45.0
いちご	33.7	34.0
メロン	5.2	6.0
にがうり	6.1	7.0
露地野菜	449.2	568.0
だいこん	93.7	150.0
にんじん	31.4	50.0
キャベツ	264.4	280.0
かぼちゃ	10.9	15.0
ごぼう	38.8	50.0
しょうが	10.0	12.0
たまねぎ	0.3	11.0
花き・花木	50.1	59.0
きく類	5.1	4.0
枝物	45.0	55.0
工芸作物	1,023.1	1,030.0
茶	1,023.1	1,030.0
いも類	1,367.2	1,382.0
さつまいも	1,336.0	1,350.0
ばれいしょ	31.2	32.0
飼料作物	1,406.1	1,420.0
春夏作	756.1	760.0
秋冬作	650.0	660.0
重点推進品目合計	4,376.7	4551.0

(2) 重点推進品目のモデル類型

モデル類型	形態	経営規模	農家育成の考え方
さつまいも+だいこん	個人	さつまいも 5ha だいこん 5ha	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量品質の向上 ・さつまいも農家や既存の露地野菜農家への規模拡大支援
	法人	さつまいも 12ha だいこん 12ha	
さつまいも+キャベツ	個人	さつまいも 6ha キャベツ 4ha	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化の推進 ・雇用創出力のある規模拡大農家の育成
	法人	さつまいも 20ha キャベツ 10ha	
さつまいも+にんじん	個人	さつまいも 6ha にんじん 1ha	<ul style="list-style-type: none"> ・機械化による省力化対策の推進
さつまいも+だいこん+キャベツ+ごぼう	法人	さつまいも 8ha キャベツ 4ha だいこん 4ha ごぼう 5ha	<ul style="list-style-type: none"> ・契約販売による共販体制の確立
ピーマン	個人	0.3ha	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量品質の向上 ・研修施設を活用した新規参入者の育成
	法人	1.0ha	
いちご	個人	0.3ha	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面積の拡大 ・畑かん施設を活用した生産性の向上
	法人	1.0ha	
茶	個人	5ha	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量品質の向上 ・雇用創出力のある規模拡大法人の育成
	法人	30ha	

大崎町

水利用効果による、収益性の高い畑作経営で所得の向上と産地化を！

大崎町は、畜産を基幹とした営農を中心とし、さつまいもや露地野菜の栽培が展開されています。栽培面積に占める飼料作物の割合は38.8%で最も多く、次に野菜類が28.9%、その他、さつまいもなどの普通作物が20.9%となっています。

現在は、畑地かんがい施設の整備が進み、さまざまな営農体系に対応できる収益性の高い農業が実現できつつあります。

今後は、認定農業者や認定新規就農者などを中心とした担い手農家の育成を図るとともに、畑かんを活用した主要品目の品質向上や施設園芸の経営安定、水利用効果の高い露地野菜の導入、拡大を進める必要があります。

畑かん受益地の範囲

地区名	耕地面積	受益面積	受益割合	事業実施範囲
大崎	3,200ha	1,804ha	56%	曾於南部

畑かん受益地における推進品目

地域名	部門名	推進品目
大崎町	野菜類	だいこん、キャベツ、ごぼう、ピーマン
	工芸作物	茶・さつまいも
	畜産	飼料作物

キャベツの液肥散水状況



畑地かんがい利用の方向性

1 野菜

- ◆野菜については、「だいこん、キャベツ、ごぼう、ピーマン」の重点推進品目の面積拡大と団地化を進めるとともに、水利用による生産性の向上を図り、計画的な生産や出荷が可能な産地の育成を図ります。また、液肥混入材を使用した液肥での追肥により、固形肥料を散布する手間を省いた畑かん水利用を活用した省力化を図る。
- ◆産地化を進めるなかで課題となる生産農家の収益性の安定を図るため、契約取引や加工野菜の導入も行い、生産者が安心して作れる販売体制を確立します。
- ◆露地野菜を組み合わせた大規模農場の育成を目指し、対象農家への農地の集積と水利用推進を図り、併せて省力化技術の導入と雇用労力の確保支援を充実し、認定農業者や法人の育成を進めます。

2 さつまいも

- ◆夏期畑作の多くを占める「さつまいも」については、育苗時の畑かん利用による良質苗の安定確保を図るとともに、植え付け時のかん水による活着の安定による欠株防止を図り、生産性の向上を図ります。
- ◆畑かんの利用による計画的な生産体制を確立し、他品目（飼料作物・野菜類）との組み合わせによる大規模農家の育成を目指します。

3 茶

- ◆「茶」は防霜対策と夏場のかん水を基本とし、畑地かんがい施設の整備を進めます。

4 畜産

- ◆「飼料作物」についても畑かんの積極的な活用により、収量の向上と安定生産を目指し、畜産農家の自給率向上を図ります。
- ◆栄養価の高い飼料作物等の検討を進めるとともに、地域内での粗飼料生産供給体制の構築を行います。

5 営農組織

- ◆地域における水利用調整や重点推進品目の振興を図るために、土地改良区を中心に、畑かん受益地内の営農推進に向けた支援を行います。特に、防霜対策による水利用が集中する茶については、地域別組織を育成し、防霜対策や団地化推進のための支援を行います。
- ◆町、JA、土地改良区、曾於畑地かんがい農業推進センター及び農家等が一体となって、規模拡大や産地育成に向けた相互検討の場を提供し、効率的な畑地かんがい受益地における営農推進を図ります。
- ◆地域における高齢化の進展や農家数の減少をふまえ、JA及び農業生産法人における生産システムの確立支援を行い、今後の畑かん受益地における重点推進品目の拡大を図

ります。

6 その他

◆実需者や消費者のニーズに即した生産体制を確保するため、新規品目や既存の施設品目についても検討を進め、さらに生産性の高い畑かん営農の実現に努めます。

推進品目の生産目標（畑地かんがい受益地内）（単位：ha）

推進品目	現況（H30）	目標（H40）	増減
	面積	面積	面積
野菜	553.8	576.6	22.8
だいこん	284.1	295.0	10.9
キャベツ	156.0	162.0	6.0
ごぼう	110.6	115.0	4.4
ピーマン	3.1	4.6	1.5
工芸作物	575.3	521.0	△54.3
茶	94.5	90.0	△ 4.5
さつまいも	480.8	431.0	△49.8
飼料作物	907.3	916.0	8.7
推進品目合計	2,036.4	2,013.6	△22.8

畑かんを支える経営体の育成目標

モデル類型	経営規模	育成目標	〈参考〉目標所得
さつまいも+露地野菜（家族）	さつまいも 4 ha キャベツ 2 ha	20戸	400万円
だいこん+露地野菜（法人）	だいこん 50 ha ごぼう 8 ha キャベツ 5 ha ----- だいこん 20 ha さつまいも 15 ha キャベツ 10 ha	10法人	500万円 ～ 3,000万円
施設野菜専作（家族）	ピーマン 3,000 m ²	10戸	500万円
茶専作（家族）	茶 8 ha	5戸	500万円

鹿屋市輝北町

■ ■ 畑地かんがいの効率的な水利用による生産性の高い畑作農業の推進

鹿屋市輝北町は、畜産を基幹部門としており、畜産の農業産出額は、全体の91%を占めています。一方、耕種部門の割合は、9%で、そのうち野菜類が約47%であり、スプレー菊を中心とした花きが約26%となっています。

スプレーギクやピーマンを中心とする施設園芸農家、畑かん受益地区におけるごぼう、生姜以外は、依然として畑作用水の多くを降雨に頼った、天候に左右されやすい営農体系であり、甘藷や飼料作物などの品目が作付けの大半を占めています。

近年ごぼうの通年栽培による生産拡大が進み、地域の露地野菜の重点品目となってきたごぼうを中心とした露地野菜等の更なる生産拡大や、スプレーギクやピーマン等の施設園芸の振興のため、一層の畑かん水利用推進に努めていきます。

今後は、鹿屋市の研修制度を活用しながら、後継者を含めた新規就農者の確保を行うとともに、農業公社との連携により新規品目の選定など、認定農業者を中心とした地域の担い手農家の育成を進めていきます。

畑かん受益地の範囲

地区名	耕地面積	受益面積	受益割合	事業実施範囲
鹿屋市輝北	950ha	317ha	33%	曾於南部



スプレーギク



ごぼう



ピーマン



ソリダゴ

畑かん受益地区における推進品目

地域名	部門名	推進品目
鹿屋市 輝北	花き類	スプレーギク、ソリダゴ
	工芸作物	茶、甘藷
	畜産	飼料作物
	野菜	さといも、ごぼう、ピーマン

1 花き

- かごしまブランド産地となっているスプレーギクについては、今後も水利用による生産性の向上を図り、計画的な、安定した生産や出荷が可能な産地の育成に努めていきます。
- コギク農家等のハウスの有効活用と所得向上のため、希望農家に対し新規品目としてソリダゴを推進していきます。

2 甘藷

- 畑かん利用による天候に左右されない作付けにより、計画的な生産体制を確立します。
- 甘藷については、育苗時の畑かん利用により良質苗の安定確保を図るとともに、植え付け時のかん水による活着の安定を図ります。

3 野菜

- 水利用効果の高いごぼう、さといも、ピーマンを推進品目として位置づけ、生産性向上を図ります。

4 茶

- 既存の圃場を中心に、畑かん受益地内での団地化と面積拡大を図ります。
- 防霜対策を水利用の基本とし、夏期のかん水など効率的な水利用を進めます。

5 飼料作物

- 畑かんの積極的な活用と飼料作物生産の受委託組織の育成により、飼料作物の収量と安定生産を目指し、畜産農家の自給率向上を図ります。
- 飼料作物と、ごぼうをローテーションすることにより、農地の有効活用とごぼうの連作障害回避、良質な自給飼料の増加によるコスト削減等を図り、畜産農家と耕種農家相互の経営安定と所得向上を進めていきます。

推進品目の生産目標（畑地かんがい受益地区内）

重点推進品目	現況（H29）	目標（H40）	増減
	面積（ha）	面積（ha）	面積（ha）
花き	15.2	14.3	△0.9
スプレーギク	15.2	12.8	△2.4
ソリダゴ	—	1.5	1.5
工芸作物	72.4	70.3	△2.1
茶	40.3	40.3	0
甘藷	32.1	30.0	△2.1
野菜	48.6	52.2	3.6
ごぼう	37.4	41.0	3.6
さといも	4.9	4.9	0
ピーマン	6.3	6.3	0
飼料作物	253.6	245.1	△8.5
春夏作	141.3	141.6	0.3
秋冬作	112.3	103.5	△8.8
推進品目合計	389.8	381.9	△7.9

※1 現状の作付面積は平成29年度作付調査からの推計値

※2 施設花き・ピーマンについては、圃場面積

畑かんを支える経営体の育成目標

モデル類型	経営規模	育成目標	〈参考〉 目標所得
花き専作（家族）	スプレーギク 0.3ha	18戸	520万円
	コギク+ソリダゴ 0.2ha	3戸	318万円
露地野菜（家族） + 大根	ごぼう 5.0ha	7戸	600万円
	大根 4.0ha		
茶専作（家族）	茶 5ha	7戸	380万円
茶専作（法人）	茶 15ha	1法人	1125万円
ピーマン（家族）	ピーマン 0.22ha	14戸	400万円
ピーマン（家族） +ソリダゴ	ピーマン 0.2ha ソリダゴ 0.05ha	5戸	450万円

※ コギク+ソリダゴ（家族）、茶（家族）の類型は、地域ビジョンにおける目標所得に達していないが、規模拡大や生産性の向上により所得向上を図る。

[参考] 受益地内の品目別生産の現状と目標 【曾於地域】

(単位:ha, %)

	作 付 面 積			備考
	現状(H30)	目標(R10)	目標/現状	
野菜	1,588.5	1,772.2	112%	
かぼちゃ	18.2	22.3	123%	
だいこん	520.1	582.3	112%	
ごぼう	262.1	301.3	115%	
キャベツ	467.3	490.9	105%	
はくさい	95.2	95.2	100%	
にんじん	31.4	50.0	159%	
ばれいしょ	31.2	32.0	103%	
さといも	48.4	58.4	121%	
しょうが	16.2	18.2	112%	
いちご	33.7	34.0	101%	
ピーマン	45.4	55.9	123%	
にがうり	6.1	7.0	115%	
メロン	5.2	6.0	115%	
その他野菜	8.0	18.7	234%	
普通作物	2,870.3	2,832.4	99%	
さつまいも	2,870.3	2,832.4	99%	
その他普通作物	0.0	0.0		
工芸作物	1,524.9	1,537.3	101%	
茶	1,524.9	1,537.3	101%	
その他工芸作物	0.0	0.0		
花き	74.1	82.1	111%	
きく類	28.8	25.3	88%	
その他花き・花木	45.3	56.8	125%	
果樹	47.4	53.0	112%	
ゆず	47.4	53.0	112%	
その他果樹	0.0	0.0		
飼料作物	4,230.4	4,244.5	100%	
合計	10,335.6	10,521.5	102%	

※1 現状の作付面積は平成30年度作付調査からの推計値
茶の作付面積は幼木園を含む

※2 目標は令和10年度で、作付面積は各市町の営農ビジョンの集計

I 曾於地域の大規模畑かん事業の実施状況

1 事業名

国営：かんがい排水事業
 県営：曾於東部及び曾於南部 … 畑地帯総合整備事業(担い手育成型)
 曾於北部 … 畑地帯総合整備事業(担い手支援型、一般)

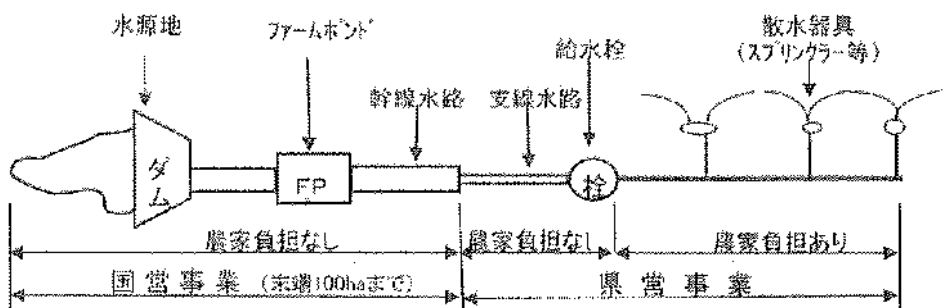
2 事業概要

平成31年4月現在

地区名	曾於東部			曾於南部			曾於北部				
受益面積	3,130ha			4,000ha			2,052ha				
受益者数	4,018人			5,582人			3,914人				
国営事業	項目	全体	進捗	全体	進捗	全体	進捗				
	事業費	591億円	100%	511億円	100%	394億円	100%				
	ダム	中岳ダム(大淀川) ロックフィル 有効貯水量 425万m ³		輝北ダム(大鳥川) 重力式コンクリート 有効貯水量 635万m ³		谷川内ダム(谷川内川) 重力式コンクリート 有効貯水量 192万m ³					
	頭首工	高岡頭首工(固定堰)		—		粟谷頭首工(可動堰)					
	FP	8カ所		9カ所		5カ所					
	揚水機場	2カ所		8カ所		4カ所					
	水路工	99km		95km		68km					
	工期	S59年度～H18年度		H元年度～H20年度		H8年度～H26年度					
県営事業	項目	全体	H30まで	進捗	全体	H30まで	進捗	全体	H30まで	進捗	
	事業費	224億円	224億円	100%	269億円	248億円	92%	214億円	88億円	40%	
	畑かん	3,120ha	3,120ha	100%	3,928ha	3,928ha	100%	1,998ha	920ha	46%	
	通水面積		2,722ha	87%		3,297ha	84%		534ha	27%	
	工期	S60年度～H24年度			H10年度～H33年度			H20年度～H39年度			
	H31年度予定事業費	H24完了			H30補正	300,000千円	H30補正	1,046,000千円	H31割当	405,000千円	H31割当
事業量	H24完了			合計	700,001千円	合計	1,451,000千円	配管	一式給水栓	57ha	
該当市町	曾於市末吉町	1,002 ha	鹿屋市輝北町	317 ha	曾於市大隅町	345 ha					
(県営受益面積)	志布志市松山町	1,050 ha	志布志市有明町	1,859 ha	曾於市財部町	929 ha					
	志布志市志布志町	1,068 ha	曾於郡大崎町	1,752 ha	曾於市末吉町	724 ha					

地区名	大隅南			
受益面積	212ha			
受益者数	250人			
県営事業	項目	事業量等		進捗
		全体	H30	
	事業費	26億円	20億円	77%
	配管面積	212ha	146ha	69%
給水栓	146ha		69%	
工期	H23年度～R5年度			

3 工事負担区分模式図



○県営事業負担割合(%)
(平成31年度)
(育成型)(支援型)

国	55.00%	50.00%
県	20.62%	28.75%
地元	18.37%	21.25%

※ 曾於東部地区は県営事業も完了
 大隅南地区は地下水のポンプアップによる送水(県営事業のみ)

II 曾於地域畑地かんがい営農推進本部体制図

